

推論発問で メッセージを読み取らせる

田中 武夫

(山梨大学)

1. リーディング指導で主題をどう扱うか？

教科書の本文には、生徒に対する様々なメッセージが込められおり、それは主題と呼ばれます。例えば、環境や平和問題、偉人の生き方、伝統の大切さ、文化の違い、ことばの大切さなどです。本文に書かれたメッセージを読み取ることは、リーディング指導の重要な目標の1つです。しかし、私たち教師はそのようなメッセージをどのように扱ってよいか困ることがあります。例えば、生徒が題材や内容に興味をもってくれない、時間が十分になく教師が一方的に教えてしまうことが多い、などです。

では、題材に興味をもたせ、本文に込められたメッセージを自分の力で読み取らせるには、どうすればよいのでしょうか。本稿では、推論発問を活用した教科書本文の主題を読み取る指導のあり方について考えてみます。

2. 推論発問とはどのようなものか？

推論発問 (inferential questions) とは、「テキストの情報をもとに、テキスト上には直接示されていない内容を推測させるもの」を指します。テキスト上に直接示された内容を読み取らせる事実発問 (fact-finding questions) とは異なり、推論発問には次のような利点があります。

- ・テキストの細部と全体を必然的に読み取らせる
- ・同じテキストを何度も繰り返し読ませる
- ・生徒の背景知識を活性化し具体的な理解を促す
- ・他の生徒と異なる解釈や考えを共有することで別の角度からのテキスト解釈を促す
- ・テキストの主題を生徒自身の力で気づかせる

3. 推論発問で何を問えばよいのか？

テキストには必ず主題があります。しかし、主題は、テキスト上に直接述べられていないことがよくあります。そのため、テキストに書かれている情報をもとに、テキストに込められた主題を読み取ることになります。そこで役立つのが推論発問です。推論発問で次のような事柄を生徒に考えさせるのです。例えば、テキストには書かれていない場面や状況、登場人物の行動や意図、人物の性格や心情・関係、行動や出来事の結果、テキストにはない動作やセリフなどです。これらを推測させることで、具体的に、かつ深くテキストの主題を理解するきっかけをつくり出せます。それでは、具体的に見てみましょう。

4. 推論発問の具体例

右上のテキストは、オーストラリアで英語落語の海外公演をしているきみ江さんが、中学生のショーからインタビューを受けたときの新聞記事の一部です。このテキストを使ってどのような発問が考えられるでしょうか。

まず、正確なテキスト理解にとって欠かせない発問には、「きみ江さんはどこに住んでいましたか？ [アメリカ]」、「多くの人は何をたずねてきましたか？ [日本のジョークを言ってくれ]」、「アメリカ人は日本人をどう思っていましたか？ [決して笑わない]」、「ショーは何を一度も聞いたことがないのですか？ [日本人のジョーク]」、「ショーは何に感心したのでしょうか？ [きみ江さんが日本の笑いの文化を英語で世界に伝えようとしていること]」などが考えられます。これらは、テキスト上に書か

S: ... Why did you begin to perform *rakugo* in English?
 K: When I lived in the United States, many people asked me, "Can you tell me a Japanese joke?" They thought Japanese never laughed.
 S: That's true. I have never heard a Japanese joke.
 K: I wanted to share our special tradition of laughter. So I perform in English.
 S: I'm impressed. How long have you been on this tour?
 K: For four weeks. I've been to India, Malaysia, Singapore ... and now Australia. The tour has been very exciting.

れた情報を使って答える事実発問です。

しかし、これだけではテキスト主題を深く理解できない可能性があります。そこで、次のような推論発問をたずねてみるすることができます。

テキストには、日本人は決して笑わないとアメリカ人に言われたときの、きみ江さんの気持ちまでは書かれていません。そこで、「きみ江さんはそのときどう思ったかな?」、「どんな気持ち?うれしい?怒った?くやしい?」、「なぜ?」のようにたずねることができます。生徒からは、「悲しい[日本人が正しく理解されていないから]」、「怒ったと思う[日本人をバカにしないで]」、「くやしい[日本のよさが伝わっていない]」などの答えが出てくるはずです。

また、きみ江さんの落語が伝わったかどうかは、直接述べられていません。そこで、「きみ江さんの落語は世界の人々にうまく伝わったと思う?」とたずねてみます。本文中の "I've been to India, Malaysia, Singapore ... and now Australia. The tour has been exciting." の部分から、日本の笑いの文化が世界各国で受け入れられていることが推測できます。

もう1つ。海外での落語を通し、きみ江さんが何を学んだかは直接書かれていません。そこで、「世界各国で落語を伝えてきて何を学んだと思う?」と

問うことができます。予想される生徒の答えとしては、「日本の笑いは世界にも通じる!」、「日本のよさを世界に伝えるためには、英語は欠かせない!」などが出てくるでしょう。生徒のこれらの答えこそがこの本文の主題です。この発問をきっかけにして、自分たちで主題に気づくことができれば、生徒は達成感やテキストの価値を感じるはずです。

5. すぐれた推論発問をつくるポイントとは?

では、どのようにすれば、すぐれた推論発問をつくれるのでしょうか?ポイントは2つです。1つめは「主題に関わる問いをつくること」、2つめは「テキスト内にヒントが必ずあること」です。

まず、教師自身がテキスト主題は何であるかを考えてみることです。先ほどのテキストでは、きみ江さんのエピソードを通し、「日本のよさを世界に伝えていく必要がある」、「英語を通して日本のことを理解してもらうことができる」など、文章に込められた読者へのメッセージを教師自身が読み取り、それにつなげる推論発問を考えてみるのが大切です。

推論発問の2つめのコツは、テキスト内にヒントが必ずあることです。ヒントのない推論発問では、生徒のテキスト理解が深まることはありません。「なぜそのように考えたの?」のようにたずね、テキストのどこにヒントが書かれているかを確認し、異なる根拠や解釈をクラス内で共有することで、クラス全員のテキスト理解が自然と深まるでしょう。

このように、最終的にどのようなテキスト主題を理解してほしいかをしっかりと考え、そこから逆算し、テキストに書かれた情報をヒントにしながらかぎとすることができます。推論発問をつくり出すことがカギとなります。テキストの主題を深く理解させることがリーディング指導の目標の1つであるとならば、推論発問は、その指導目標を達成させるために欠かせないステップの1つとなります。テキスト理解を深める仕掛けとして、ぜひ明日の授業から推論発問を活用してみたいかがでしょうか。

【参考文献】

田中武夫・島田勝正・紺渡弘幸(2011),『推論発問を取り入れた英語リーディング指導:深い読みを促す英語授業』三省堂